

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:65



2015 年 2 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを



0
化学染料
ゼロ

ヘナは
自然派の
白髪染め
です！

グリーンノート ヘナ シリーズ

各100g

ヘナ・ヘナスーパー（早染めヘナ）

オレンジブラウン	1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン	1600円+税
スーパーブラウン	2200円+税

オーガニータ（エコサート認証ヘナ）

ビターオレンジ・ノンカラー	1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン	2300円+税
ノンカラー	1600円+税

植物成分100%
お湯で溶いて
塗るだけで簡単！



潤い
を閉じ込めて
艶やかに

コシ
が出て根元から
立ち上がる

ボリューム
アップ

しっとり
落ち着いて
まとまる

やっぱり天然が一番体にいい！
人工的な美しさはもういらない！

グリーンノートのヘアケアシリーズはシリコンはもちろんのこと、石油系成分は一切使用していません。人間本来に備わる美しさを最大限に引き出すことを考えて自然派の研究者が作りました。

天然由来成分100%

石油系成分を一切使わない



両タイプ共通 全3色

脱ケミカル
ライフ！

グリーンノート ヘアケア シリーズ

敏感肌に・洗うたびに髪質向上
自然葉（しぜんは）シャンプー

本体	300ml	3000円+税
ミニ	30ml	400円+税

リンス
不要

部分用白髪隠し
ヘアカラースティック

2200円+税

広範囲用白髪・薄毛隠し
ヘアカラーファンデーション

パクトセット	3600円+税
詰め替え用	3100円+税

製造販売元：
株式会社 グリーンノート
東京都中野区東中野2-20-13
☎ 03-3366-9701

詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶

<http://www.henna.co.jp>

目 次

○ 全日本総合選手権大会の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第90回天皇杯・第81回皇后杯	
○ J X-E N E O S ウィンターカップ・・・・・・・・・・・・	11
第45回全国高校選抜優勝大会結果	
○ J B A 国際大会出場停止処分に・・・・・・・・・・・・	14
○ 京都で中学生クリニックを開催・・・・・・・・・・普及部・総務部	19
○ 会員だより	
バスケットボール湘南だより（その9）・・・・・・・・中瀬達雄	23
38年間の高校教員生活を終えて（その2）・・・・須田武志	26
日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流に参加して・・・・鷺澤秀夫	29
○ 全国ゴールデンシニア交歓大会・・・・・・・・・・普及部	30
第4回横浜カップ i n 熱海2015	
○ 12月21日はバスケットボールの日・・・・・・・・・・普及部	32
2014年は10ヵ所でお祝いしました！	
○ 日本バスケットボール学会が発足・・・・・・・・・・普及部	33
○ 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・	34
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・	35

J X - E N E O S ウィンターカップ

第45回全国高校選抜優勝大会結果

[編集部]

この大会は、今回も多く多くの観客を集めて12月23日から29日まで、おなじみの東京体育館で開催された。何かと忙しい年末にも拘わらずこの大会の人気は衰えず、男女決勝戦の際は3階席まで観客で埋まるという盛況になった。

いろいろと問題が多いバスケットボール界の中で、ただひたむきにプレーする高校生たちの姿をひと目見ようという人や、出場した郷里の高校を応援する人、日本の将来を背負っていく高校生に期待する観客などなど、相変わらずの人気ぶりである。

大会には全国から選ばれた男女50チームずつが出場し、12月23日の1回戦から始まり28日の女子決勝、29日の男子決勝で幕を閉じた。優勝したのは男子が宮城県仙台市の明成高校、女子が愛知県の桜花学園高校でいずれも昨年に続いて連続の栄冠を勝ち取った。なお、この大会は来年度から全国高校選手権大会として再出発とする。

大会の結果は次頁以降に掲載するが、試合は初日から高校生らしい澁刺としたゲームが展開された。ちなみに1回戦を突破したチームの平均得点をみると、男子で86点、女子で76点となっており、2回戦を勝ち上がったチームの平均得点をみると、男子では87点、女子で80点を挙げていていずれも高得点。バスケットの試合において得点が重なり合うゲームに興味をそそられる結果が、観客増の要因に浮かび上がってくる。

以下に注目された試合を振り返ってみる。

[男子]

2回戦、福岡大学付属大濠VS高知県明德義塾の試合は68対66の1ゴール差で福岡大学付属大濠が辛勝した。2名の留学生を抱える明德義塾は前半の12点リードを守り切れず第4ピリオドに逆転されて悔しい結果となったが、後半ファウルを抑えたディフェンスに徹すれば勝てたかも知れない。

準々決勝、福岡大学付属大濠VS秋田県能代工業戦は94対84で福岡大学付属大濠が勝利、シード校の北海道東海大学付属第四を破って勝ち上がった能代工業だったが、第2ピリオドでわずか8得点と云う拙攻が最後までたたって敗戦となった。

決勝戦、昨年覇者の明成VS高校総体優勝の福岡大学付属大濠の試合は息詰まる接戦となったが、試合終了寸前に明成の#8八村がシュートを決めて逆転の1ゴール差で明成が優勝した。TVでご覧になった方も多いと思うが後半最後の方で福岡大学付属大濠#8牧のダンクシュートを明成の#8八村がブロックするなど素晴らしいプレーが続出し、観客を沸かせた。

[女子]

女子では1～2回戦で接戦となった試合もあったが、高校総体優勝の桜花学園と高校総体2位の千葉県昭和学院、愛媛県聖カタリナ女子の強さが目立った。3位となった聖カタリナ女子は準決勝で桜花学園に4点差と迫る健闘をみせたが決勝進出はならなかった。

決勝戦、高校総体の借りを返したい昭和学院だったが、第3ピリオドまでで13点のビハインドとなり、第4ピリオドにプレスディフェンスからの猛攻で必死に追いつけたが及ばず、桜花学園が全試合を通して安定した試合運びで昨年に続いて優勝した。

男子の結果



女子の結果



J B A 国際大会出場停止処分に

[編集部]

<<これまでの経緯>>

F I B Aは、昨年11月26日、J B Aに対して「無期限の資格停止処分」を科し全ての国際試合参加を無期限に停止するという制裁処分を発表した。これにより日本はジュニア、女子を含めアジア選手権など国際大会への出場資格がなくなり参加できなくなった。

F I B AがJ B Aに対して具体的に改革の指摘をしたのは今から1年前、その主たる内容は「男子において2つのリーグが併存すること」、「これをまとめる改革が出来ない日本協会のガバナンス不足」、「男子代表の競技力不足」である。特にN B Lとターキッシュエアラインズb jリーグ（以下b jリーグ）の併存に対してF I B Aは相当こだわっているようである。

数年前から、F I B Aの事務総長であるパトリック・バウマン氏（47歳のスイス人）が訪日して、男子の2リーグ併存については好ましくない旨をJ B Aに警告していたが、このことについて日本協会全体としてあまり重きをおいてなかった風潮も見える。

J B Aは、国内男子の2リーグ統一を目指して作業に入り、N B L理事長の丸尾氏、b jリーグコミッショナーの河内氏を協会理事として委嘱し、深津会長(当時)自らも前面へ出て2リーグを統一したプロリーグの発足を目指して取り組んだ。

しかしながら、F I B Aから具体的なリーグ統一の方向性を示す期限とされた10月末日までに結論は出ず、そこで深津会長がその責任を取る形で10月に辞任した。J B Aの会長自らが進んで不成功に終わった事態のため、その後の組織で結論が出るはずはない。J B AはF I B Aに結論が出なかったことの言い訳的な文書を提出したが、F I B Aが受けるはずもなく「J B Aの無期限の資格停止」という制裁処分が発令されたのである。

この重要問題についてJ B A理事会が解決へ向けて努力した跡は残念ながら見当たらない。F I B Aが指摘しているJ B Aのガバナンス不足もそのあたりにあるのであろうか。

以下に昨年(2014)の主だった経過を列挙してみる。

時期	出来事
1月	F I B Aからおおよそ3項目にわたる改革の指摘を受け、J B A内に運営改革のための委員会を設置
2月	N B L、b jリーグを統一したプロリーグの発足をJ B Aが決定したが、その際b jリーグ側はその決定に加わっていない
5月	2リーグ併存解消の具体的方向性を10月末日までにF I B Aに示さなければ国際大会出場停止の制裁を受ける可能性があることをJ B Aが発表
6月	J B A新理事決定、丸尾氏、河内氏も理事会へ入る。 N B Lとb jリーグが2016年から統一したプロリーグ発足に向けて話し合うことに合意、一時はこれで先が見えたか？
10月	話し合いは双方の主張により難航し結論を見いだせず深津会長が辞任
11月	F I B Aから無期限資格停止の制裁（国際試合の禁止）処分を受ける
12月	J B A全理事辞任を表明 J B A梅野副会長からF I B Aとの共同記者会見に関する声明発表

制裁発令後、F I B A事務総長バウマン氏は12月に再来日し、自ら下村文部科学大臣、竹田J O C会長、日本サッカー協会川淵最高顧問などと面会し、2リーグ併存問題の解決のためそれぞれの機関に尽力を求めている。

F I B Aから要請を受けた文科省、J O CはF I B Aが提案するタスクフォース（特別チーム）のトップに川淵三郎氏を推薦することを決めている。

バウマン事務総長が主張するトップリーグは1国1リーグで、それなりに競技力を備えたピラミッド形態の組織であり、N B Lにしるb jリーグにしる、現在のように上位チームと下位チームの差が著しい状態は認められないだろう。

N B Lとb jリーグがまとまって1つのトップリーグを形成することが何故これほど困難なのか。それはb jリーグ発足当時の経緯に遡る。

1994年プロリーグを目指して日本リーグ機構（J B Lー現在N B L）が発足、以後J B Aを含めてプロ化について何度も議論された。しかし、プロ化の結論は出せず、たまりかねた新潟アルビレックスと埼玉ブロンコスが2004年にJ B Lを脱退してプロリーグを結成し、翌年2005年から参加6チームによるb jリーグが開幕された。

J B Aはこの2チームの脱退とb jリーグを認めず、b jリーグに協力した審判員の資格はく奪などもあって事態は感情化した。完全なプロ運営であるb jリーグに対して、J B Lもプロ化を目指し現行のN B Lとして再発足したが、一部のチームにプロ形態はあるにしるプロリーグとは云えない。F I B Aのみならず誰が見ても、N B LがJ B A管理下の国内最高リーグ、b jリーグがJ B A管理外のプロリーグと、全く別の二つのトップリーグであると写り、一つの国に二つのトップリーグが存在する状況である。

F I B Aが主張するタスクフォースをも含めた、日本のトップリーグ統一構想の決定期間は来る6月末日までである。J B Aはすでに全理事が辞任表明していて、これらの問題に責任をもって取り組める状況にはなく、今はタスクフォースの活動に頼るしかない残念な状態に陥っている。

8月にはリオ・オリンピック予選となる女子アジア選手権大会の開催があるが、日本女子代表は前回のアジア選手権大会で優勝しているだけに期待は大きい。また、男子についても9月に同様のアジア選手権大会があり、国際大会出場停止の制裁が続けば男女ともにオリンピック出場への道は閉ざされてしまう。

N B L、W J B L、b jリーグとも現在はリーグ戦の最中なので選手は試合に集中していると思われるが、最終的には日本バスケットの悲願でもあるオリンピック出場を勝ち取らなければ、このスポーツの衰退は避けられないであろう。

J B Aの梅野会長代行は「6ヶ月間みんなで力を合わせて精力的に活動し、解決のための改革を進めたい」とコメントしているが、1日も早く解決を図り制裁解除を実現して欲しい。

ちなみに一つの例ではあるが、今シーズン終了後N B Lとb jリーグそれぞれの代表数チームでトップリーグを形成し、来シーズンからトッププロリーグとして発足し、その他のチームはその下位のリーグとして現行を修正し継続する基本構想はどうだろうか。具体的な細部はその後いくらでも別に検討すればよいのではなかろうか。

<<タスクフォース発足>>

F I B A が立ち上げたタスクフォースは、「JAPAN 2024 TASK FORCE」と命名され、再来日したバウマン事務総長とともに下記 10 名のメンバーと 2 名のオブザーバーを決定し、第 1 回目の会合が 1 月 28 日に開かれ、目指す方針と今後の日程が発表された。

	氏 名	所 属 等
チェアマン	川渕 三郎	日本サッカー協会 キャプテン（最高顧問）
同補佐	インゴ・ヴァイス	F I B A セントラルボードメンバー
メンバー	青木 剛	日本オリンピック委員会 副会長兼専務理事
〃	岡崎 助一	日本体育協会 専務理事
〃	梅野 哲雄	日本協会 会長職務代行
〃	林 親弘	(株)東芝 バスケットボール部 ブレイブサンダース 部長
〃	木村 達郎	沖縄バスケットボール(株) 琉球ゴールデンキングス 代表取締役社長
〃	萩原 美樹子	早稲田大学 バスケットボール部 女子部 H.C
〃	中村 潔	(株)電通 執行役員
〃	境田 正樹	四谷番町法律事務所 弁護士
オブザーバー	久保 公人	文部科学省 スポーツ・青少年局局长
〃	パトリック・バウマン	F I B A 事務総長

タスクフォースは第 1 回会合後、「JAPAN 2024 TASK FORCE とは」と題して、次のようなメッセージを発表した。

これまで日本のバスケットボール界は、様々な問題・課題に対し、多くの議論を重ねてまいりました。しかし、内部関係者による議論では根本的な解決や合意形成には至らず、結果 2014 年 11 月に F I B A 加盟国協会としての資格停止処分を受けると言う最も大きい困難に直面しました。

「JAPAN 2024 TASK FORCE」は、この出来事を日本バスケットボール界が変革するための大きな機会と捉え、議論を進めてまいります。また、より多くの有識者・関係者・選手、そして地元やファン等からインターネットや Facebook・twitter を活用しながら、広く日本バスケットボールの未来と発展のための意見を募集し、それを集約、参考にさせていただき議論を行いたいと考えています。

日本バスケットボール界を愛する全ての方々が「JAPAN 2024 TASK FORCE」のメンバーと考えています。

“2024”は 10 年後、日本のバスケットボールのあるべき姿を共有し、2020 年夏の東京オリンピックはもちろん、その後の 2024 年夏五輪でも継続して日本代表が活躍するためにタスクフォースを行うという気持ちを込めています。

<<今後の動きとスケジュール>>

また、「JAPAN 2024 TASK FORCE」は、2015 年 6 月までに以下の 3 つの大きな課題について関係者間での合意形成を目指すとしている。

1 男子 2 リーグの統合

FIBA OFFICIAL BASKETBALL RULES に従い、J B A の傘下で運営されるトップリーグ（1 リーグ）を創生し、国内全体でリーグを成長させる。

2 日本バスケットボール協会（J B A）のガバナンスの強化

機能的、効果的、時代の先端を行く J B A 組織を再構築する。

3 日本代表（男子・女子）の強化体制確立

具体的に実行可能な長期プラン（2024 年までをカバーするもの）を策定する。

上記 1 ～ 3 それぞれに対しては、主に下記 A ～ C を議論し、その経過を公開するという。

A：目標とする理想像、 B：A に至る経過措置策、 C：B の期間の設定

2 月以降の具体的スケジュールは、3 月上旬、3 月下旬、4 月下旬、5 月下旬（最終会合）まで 4 回の会合（何れも予定）を経て、6 月下旬に予定されている F I B A Executive Board Meeting に間に合わせると公表されている。

<川淵チェアマンによるこれまでの発言>

「JAPAN 2024 TASK FORCE」のチェアマンに就任した川淵三郎氏は、これまでの数回にわたる記者発表席上で質問に答え、次のように熱く語っている。

残された人生はあまりありませんが、国際的に資格停止となっているバスケットボール界改革のために全力を尽くしたいと思います。サッカー J リーグ発足のときは準備期間が 5 年ほどありましたが、今回は 6 月までに一定の結論に導かせなければならず大変な作業になります。しかし、チェアマンを拝名した以上、最大の努力をしてみたいです。

その中で一番の課題は男子 2 リーグの統合だと考えます。そして J リーグがそうであったように、リーグ運営とチームは独立採算のプロで地域に密着し、行政や企業のバックアップを含めたクラブチーム方式でなければ発展しません。

バスケットボール界には 60 万人と云う登録選手がおりますし、プロとして成り立つポテンシャルは十分あると思います。そして選手の待遇なども改善していけば競技力アップにも繋がります。

2016 年のシーズンには統一したプロリーグの具体的な発足に至るよう全力投球してまいりますし、日本バスケットボール協会が受けている国際大会出場停止の制裁解除のために 6 月までにそれらの結論を出せるよう、多くの方々の意見も聞きながら進めていきます。

<<川渚チェアマン私案発表>>

精力的に活動する川渚チェアマンは、2月12日にNBLチームとbjリーグチームと会談し、私案であるがと前置きして次のような男子リーグ統一案を発表した。

1. 現在の2リーグを統一してピラミッド形のリーグを発足させる
2. 1部は約16チーム、2部は約20チーム、それ以下は3部とする
3. 1部チームは5,000人を収容できるアリーナを所有すること
4. チームの登録選手は15名中、10名以上をプロ契約とすること
5. チーム名に企業名を入れることは可能とする
6. チーム運営は独立した法人がつかさどる
7. 選手の年俸を含めて健全な財政状況のチーム
8. 新人採用についてはドラフト制を導入する

以上の私案を実践していく日程として、この4月に新しい運営会社を社団法人として立ち上げ、5月に新チームを選定、2016年秋には新リーグを発足させる。今2015年シーズンはそれらの移行期間とするという。

川渚チェアマンの私案を前にして両リーグのチーム関係者は一様に驚きの様を示したが、それはアリーナの問題である。現在の両リーグにおいて5,000人以上を収容できるアリーナを所有しているチームはない。それどころか日本全国において5,000人以上を収容できるアリーナはそう多く存在しない現状もある。

各チームが5,000人収容のアリーナを所有することは無理としても、確保する(借用)ことは可能なのか検討してみよう。全国的には定かではないが首都圏で5,000人以上収容できる観客席のあるアリーナをわかっている範囲で列举してみると下記のようなになる。

アリーナ名	所在地
代々木第一体育館	東京都渋谷区
東京都体育館	東京都新宿区
蔵前国技館	東京都墨田区
武道館	東京都千代田区
有明コロシアム	東京都江東区
埼玉スーパーアリーナ	埼玉県大宮市
横浜アリーナ	神奈川県横浜市
小田原アリーナ	神奈川県小田原市

統一した新しいリーグが多くリーグ戦を行うとすると、これらのアリーナを専用的に借りなければ足りないが、他のスポーツや催し物等のことを考えると専用は困難となる。

このアリーナ問題が当面の大きな関門となりそうだが、現実問題としてアリーナの収容人員については再検討の余地はありそう。いずれにせよリーグを統一させることが急務なのだから、全てのチームが統一リーグを前向きに検討して欲しいと願う。

以上



38年間の高校教員生活を終えて（その2）

須田 武志

地方（滋賀県）に住んでいると情報に疎くなるので、インカレとウィンターカップは毎年欠かさず観戦に行っていますが、これは自分のバスケットボールの知識を下げないためでもあります。現在ではクラブチームの監督、地域社会での指導、スペシャルオリンピックスの指導、京都にある大学や高校男子、中学やミニの指導もやっていて毎日指導に明け暮れています。

私が38年間やり通してきたことはおよそ次の通りです。

- 自己の健康管理のために禁酒・禁煙の実行（現在も継続中）
- リクルートをしないこと
- 練習の週休2日制の実行（毎週日曜と木曜は練習なし）
- 基礎基本練習の徹底
- 部員より速くコートに立ち、部員より遅く帰る
- 日々の練習内容や反省、感想をノートする（現在も継続中）

昭和53年(1978)秋、前号でも触れましたが、これまでインターハイ9年連続出場と飛ぶ鳥を落とす勢いだった膳所高校バスケットが、秋季大会で1回戦敗退となってしまう新聞に「インターハイ9年連続出場チーム初戦で敗退」と掲載されてしまいました。更に追い打ちをかけるように、昭和54年(1979)滋賀インターハイ、昭和56年(1981)滋賀国体のバスケットボール会場が本校体育館とすることが決まりました。現行体育館が手狭なので解体し、バスケットコートが2面取れる新しい体育館を建設することになりました。そのため工事期間の9ヵ月間体育館が使えず、毎日放課後体育館借用のため走り回ることになってしまいました。

私は当時も今も車には乗りません。従って部員も徒歩か自転車か公共交通機関などを利用しての通学や練習です。借りた練習会場へも上記手段で移動するわけですが、放課後重い教科書と練習用の荷物、チームの練習用具などを持ってあちこちと歩き回り、雨でも降ろうものなら傘が余分に必要となって大変な目に遭いました。6月に開催されたインターハイ予選では4チームによるリーグ戦の結果、1勝2敗で10年連続の夢は断たれ、更に昭和54年(1979)に地元開催の滋賀インターハイに出場することも叶いませんでした。

その時たまたま懇意にしていた神戸の霜村先生率いる甲子園学園（女子）チームから試合会場となる本校体育館を使わせて欲しいという要望があり、膳所高校の男子チームと甲子園学園女子チームが練習マッチを行いました。試合の結果は散々なものとなり上背のある女子チームに完敗でした。当時の甲子園学園チームには後にシャンソン化粧品で大活躍し、全日本代表にもなった久保田選手がおりました。彼女の息子さんは現在アメリカのジョージワシントン大学に留学し、将来を渴望されている渡邊雄太選手です。

日々の練習過程で選手やチームが上達するタイミングを知るのはなかなか困難なことだと思います。何かのきっかけで選手やチームが急に上達することは、何となくわかるような気もするのですが、私にとって具体的にはいまだに未知のことだらけです。以下にそのきっかけと結果の例を記してみます。

①上級生が引退した後に素晴らしいプレーを発揮する選手

こういう選手をよく見かけるが私はこれを「漬物の石が取れたからだ」と呼ぶ。漬物は「重石」で上から押し付けられて縮んでしまうが、その石を取り除くと「我が意を得たり」と漬物が上に上がってくるのと似ているような気がする。

②転勤等で指導者が不在になったとき

このような事態になったときチームはいつも以上に集中力を高め、結束力を強化して試合に勝つことがあるのが不思議である。

③主力選手が怪我をしたとき

2006年の世界選手権決勝戦、スペインのポイントゲッター“パウ・ガソル”が前の試合で足首を骨折して試合に出場できなかったとき、アメリカを倒したギリシャと対戦したスペインが圧勝して優勝した。選手全員がガソルの分まで頑張ろうと思った結果だろうが不思議な現象。

④定期考査後に素晴らしいプレーを発揮する選手

定期考査前1週間と定期考査中1週間は練習を休む。試験が終わった日から練習を始めると外角からのシュートが不思議なくらい良く入るようになる選手がいる。今まで出来なかったプレーがいとも簡単にできるようになる選手もいて不思議である。そういう意味ではオフも必要なのかも知れない。

⑤水を得た魚のような選手

今まで練習に遅く出ていた部員がある日を境にして、突然早くコートに出てくることがある。その選手を試合に出すと「コート狭し」と激しく動き回る姿は不思議。その選手は以来試合に頻繁に出られるような力をつけ、チームに必要な選手となる。

いろいろと経験してきた中で正月1日からの練習は、大学当時4年間、教師生活の中で38年間だったので42年間に及びますが、よく飽きもせず続けてきたものと思います。

大学の時は正月のオールジャパンがあるので1日からの練習は当たり前でしたが、教師生活の中で高校生部員にそれをさせたのはどうだったのかなと。しかし、正月の練習に休まず来る部員に途中でバスケットを辞める者は一人もいませんでした。

それらの練習メニューの中でシュートとリバウンドの練習があります。2人一組になって毎日300本程度のシュート練習を課していました。私も、シュートはやりませんでした。人数の関係でリバウンドについては部員と一緒に練習し、1日200本程度のリバウンド拾いをやったものです。

38年間で全国大会に25回出場しましたが、とうとう校長先生が応援に来てくれたことはありませんでした。ご多忙なのは理解できますが隣の京都で開催されたときなどはや

はり応援に来て欲しかったです。学校全体としての応援が少なかったこともあって、自分たちで「祝全国大会出場」の横断幕を作って一番目立つ校門付近のフェンスに張りました。

ある日、左手首のない生徒が入部してきました。中学でバスケットの経験があるとは云っても身体的に高校で通用するのかと心配しました。ところが彼は、毎朝は勿論のこと、昼休みや定期考査試験の最中でも一人で黙々とシュートの練習をしていました。そのこともあって私は彼を特別扱いせず他の部員と同様に接した結果、3年生が引退した後、彼が主将に選ばれたのです。

この選手の練習熱心に惹かれて他の部員も夜遅くまで個人練習に取り組むようになり、時には午後9時を過ぎることもしばしば、私は「練習を辞めて帰れ」と云う訳にもいかず我慢をして彼らの練習が終わるのをじっと待ったものです。その甲斐あってか、彼が3年生のときの富山インターハイ予選での決勝、瀬田工を相手にして実に8本の3Pシュートを成功させて優勝し、表彰式でMVPに輝いたのです。

だれも真似のできないような彼の努力に対して、私もこみあげてくるものを抑えきれませんでしたし、出場した富山インターハイでは多くの新聞記者やTVクルーに囲まれて試合もままならず、1回戦で敗退してしまいました。

(つづく)



主将としてチームを引っ張った松野君

バスケットのアボット君 総体で18得点

生後間もなく、車にはさまれて左手首を失った松野元紀君(八・大津市立第三)が主将を務める滋賀県立膳所高校バスケットボール部が一日、富山県で開催されている全国高校総体一回戦で松江工(鳥根)と対戦した。松野君は得意のスリーポイント(3点)シュートを三本決め、後半、激しく追い上げ、53-56で惜敗。同じ障害を持つ米大リカー、ジム・アボット投手を尊敬するという松野君は試合後、「インターハイ出場は夢だった。負けたのは悔しいが、僕

チーム最多 追い上げ実らず

膳所高校の松野主将

のバスケットは全国でも通用した」と胸を張った。松野君は、平均身長が六呎も高く、前半はリズムをつかめなかった。22-44のダブルスコアとなった後半中盤、松野君がこの日初めての3点シュートを決めてから怒涛の追い上げを見せ、3点差まで詰め寄った。会場の片隅では、松野君のお母さんも懸命の応援を送った。主将の頑張りには、次々とうに、チームメイトも次々にシュートを決め、残り二分、松野君が、またも3点シュートを決めた。だが、反撃の時は遅過ぎた。松野君はこの日、チーム最多の18点をたたき出した。「進学校でも、バスケットを続けたい。もっと勉強しなくちゃ」。次の夢に思いをはせる笑顔はさわやかだった。

貸したい人も 借りたい人も



日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流 に参加して

鷺澤 秀夫

私は昨年古希を迎えましたが、その直前に素晴らしい経験の機会をいただきましたので、誌面をお借りして報告したいと思います。

それは日本体育協会と韓国生活体育会が共同で主催するマスターズ・スポーツ交流会に参加できたことです。このスポーツ交流事業は、今から13年前に日韓共同で開催されたサッカーのワールドカップにあたって、日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流が始まり、少年の部と成人(40歳以上)の部の2部構成で今回18回目を迎え、昨年10月30日から11月5日まで韓国江原道地区で開催されました。

今回の交流大会は韓国において春に開催される予定でしたが、ご承知の通り世界を驚愕させた韓国珍島沖フェリー沈没事故が発生し、開催時期が晩秋へと変更されました。

成人のバスケットボール種目は埼玉県内チーム「東松山」を中心にスタッフ・選手18名の構成で、他の11競技種目を含めた総勢193名で成田空港から韓国へ向かいました。

大会は参加21チームを3チームずつのブロックに分けた予選リーグから始まり、勝ったチームが決勝トーナメントに進む方式で行われ、我がチームは予選リーグで2勝して1位の成績で決勝トーナメントへ進出しました。決勝トーナメントでは1回戦目は楽勝したものの2回戦目に昨年ベスト4に進出したチームと対戦して敗退、準決勝には進めませんでした。

交流試合の期間中、恒例の施設見学や韓国の歴史を探訪する企画もあり、どこへ行っても関係者の温かいもてなしを受けました。滞在中は毎晩のように韓国生活体育会を始め、江原道洪川行政者、地元バスケットボール関係者による歓迎交流懇親会が開かれ、思い出に残る数多くの場面が演出されました。



マスターズバスケットボールチーム

これからも13年間継承されたスポーツ交流による深い絆で、隣国同士の永い友好関係が確立されることを心から祈念申し上げます。

今年9月石川県で開催される「日本マスターズ大会」で、韓国バスケットボールの友人たちと再会できることを楽しみにしております。

[成人交歓交流バスケットボール競技監督]



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして

常に完璧な製品づくりを目指しています。





渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、メイン通りの名を「バスケットボールストリート」とし、2012年 秋にはシンボルとなるモニュメントも設置いたしました。

5年10年と時をかけて、、、
この「バスケットボールストリート」通称「バスケ通り」
を定着させていきたいと考えています。



渋谷センター街